

南三陸 復興まちづくり通信

第48号（平成30年6月発行）



一般社団法人 復興みなさん会

復興みなさん会は平成23年10月から、南三陸町内で東日本大震災の復興支援を継続しています。町内外の皆さまに当会の活動の内容をご理解いただくとともに、復興の最新情報をお伝えすることで、共に地域の再建への道を歩んでいただけるよう『南三陸復興まちづくり通信』を毎月発行しています。



町道3路線同時開通

南三陸町志津川の市街地に、防災集団移転団地間を結ぶ連絡道路や高台への避難道路など新しい町道3路線が完成し、4月26日に供用を開始しました。開通したのは、写真①の復興拠点連絡道路（新井田橋含む延長0.9km）、②の高台避難道路（未来橋含む延長0.8km）、③の国道45号から県道清水浜志津川港線までを結ぶ町道（新大森橋含む延長0.4km）です。市街地の幹線道路として、町役場や病院などへのアクセス向上と、交通渋滞緩和などの利便性、安全性の向上が期待されます。

復旧工事で伊里前国道45号が新ルートに

歌津伊里前地区を通る国道45号線が5月17日、復旧工事に伴い新しいルートでの通行に切り替わりました。これまでの国道は伊里前橋から「ハマレ歌津」商店街にかけて伊里前川の左岸を通っていましたが、新ルートは伊里前川右岸を通り、ハマレ歌津前に架かった仮橋を渡り、県漁協歌津支所前に接続する800mです。高台移転伊里前団地やJR歌津駅裏側に抜ける際は、ハマレ歌津の裏側を通る町道を迂回します。これまで国道が通っていた場所では、復旧工事が本格化します。



（復旧工事で切り替えになった伊里前の国道45号線）



震災で被災した南三陸町歌津地区で5月3、4の両日、計仙麻大嶋、三嶋両神社の復興記念大祭が行われました。高台移転地での住宅再建が進み、津波で流失した社務所が移転新築され、三陸道歌津 IC の供用も開始されたことから臨時開催したものです。11年ぶりに伝統の神輿海上渡御が復活。

震災後に三嶋神社に神輿を寄贈した静岡県裾野市の住民も新調した神輿とともに駆け付け、「兄弟神輿」として合流。伊里前漁港から管の浜漁港まで海上渡御し、海の神様に祈りを捧げた後、地区内を巡行。太鼓屋台や獅子舞と共に集団移転団地や災害公営住宅などを練り歩き、地域の繁栄を祈りました。

「コミュニティ支援のあゆみ」刊行

～7年間の活動を時系列に沿って記録～

復興みなさん会では、このほど平成23年10月から今年3月までの6年半にわたる活動内容を時系列に沿ってまとめた小冊子「復興みなさん会 コミュニティ支援のあゆみ」を刊行しました。5月9日には、後藤一磨代表とメンバー4人が町役場を訪問。最知副町長に冊子を贈呈しました。懇談では、当会が2月に受賞した地域支え合い活動をたたえる「S-1グランプリ いがす大賞」などについてもご報告しました。



(最知副町長に受賞を報告し、「あゆみ」を手渡しました)

改めて年月の経つ速さと、記録することの大切さを実感します。震災から7年。被災地に残された課題はまだまだ大きいものがあります。これまでの全国からのご支援に心より感謝申し上げます。これからも南三陸町の復興の情報を読者の皆様にお届けいたします。

【あとがき】
おかげさまで「南三陸復興まちづくり通信」は創刊4周年を迎えました。震災の年の平成23年10月に復興みなさん会を設立、26年5月の法人化を機に7月に「創刊号」を発行。今月で第48号です。創刊号を読み返してみると、「進む住宅再建」藤浜地区で4戸着工」などの見出しが躍っています。